

介護人材を掘り起こし 育て・送り出し・支える

～介護福祉士養成校として、地域資源として～

東京福祉専門学校ケアワーク学部
白井孝子

発表内容

- 介護福祉士養成概略

- 介護福祉士養成校として実施していること

 - 介護福祉士を目指す人材支援

 - 介護福祉士として育て送り出すために

 - 卒業後の生涯就職支援

 - キーワード【支援体制を見せ実施し自信につなげる】

- 地域資源としての再就職へのとりくみ報告

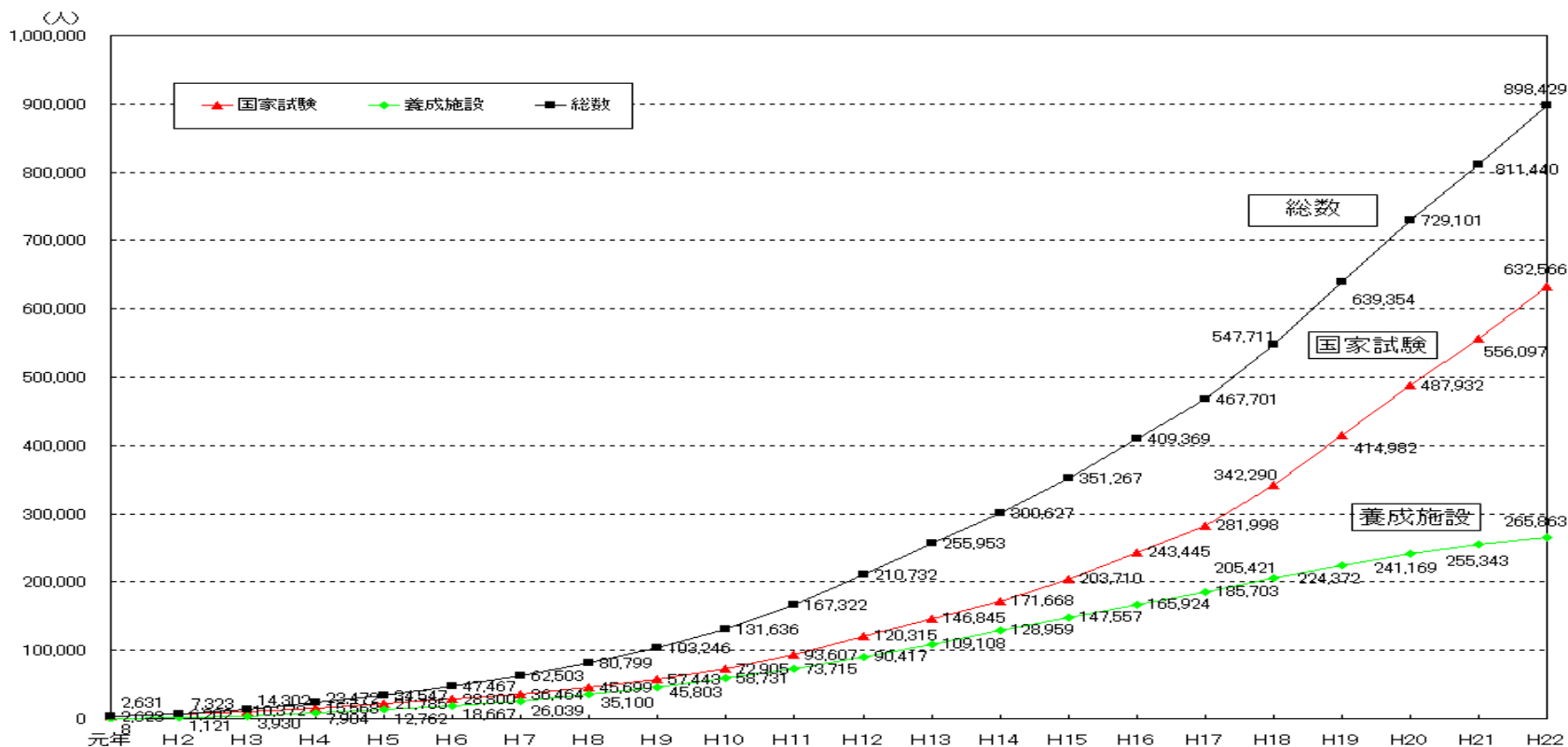
 - 江戸川区との連携事業

 - 「介護ブラッシュアップ研修」からの報告

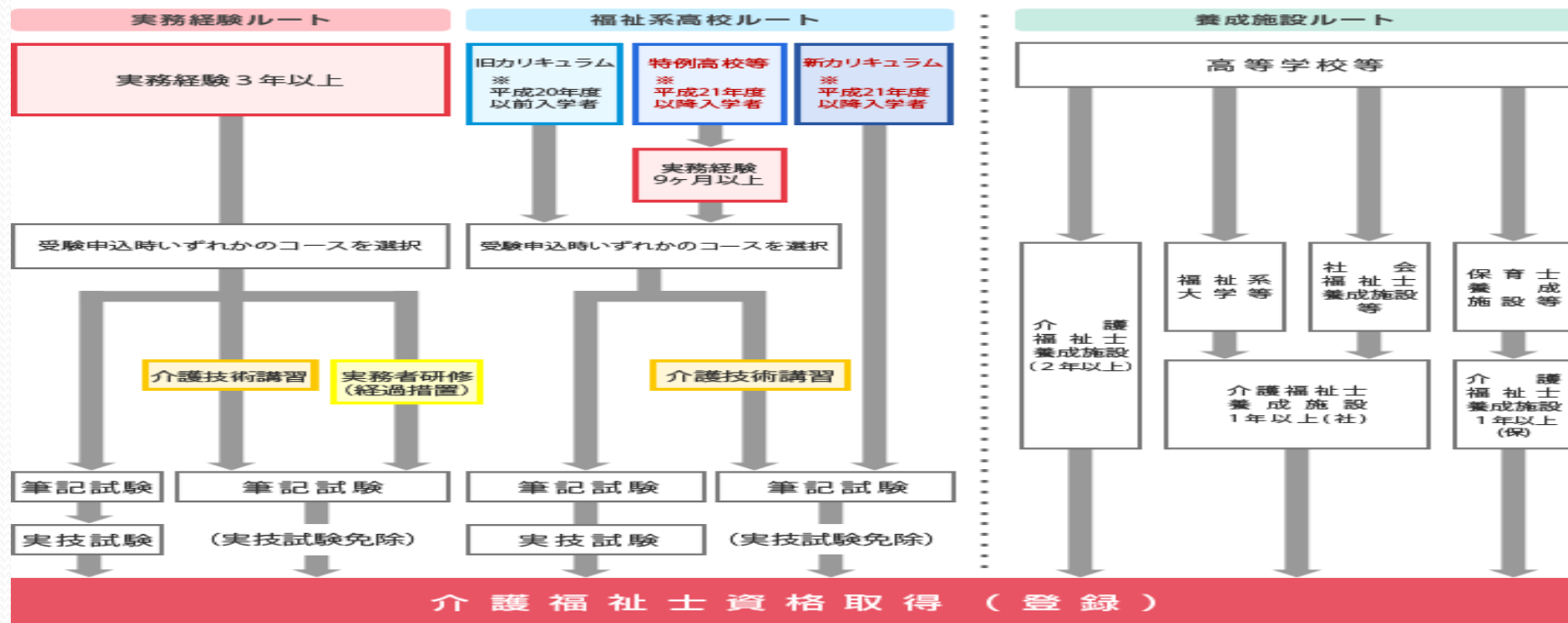
 - キーワード【働きかけの充実】

介護福祉士の登録者数の推移

厚生労働省HPより



介護福祉士取得方法（現在）



平成24年度（第25回）から

※特例高校等（高校：34単位）卒業後、実務経験9ヶ月以上介護等の業務に従事した方が受験資格。

※実務経験ルートは、実務者研修を修了した方も、実技試験の免除の対象。

（社会福祉振興・試験センターHPより）

介護福祉士取得方法(今後)

●実務ルート

実務3年以上

+

実務者研修(450時間)



国家試験受験



資格取得

※450時間のうち50時間は医療的ケア

●養成校ルート

養成施設卒業

(大学・短大・専門学校)

(1850時間)



国家試験受験



資格取得

※1850時間のうち50時間は医療的ケア

介護福祉士国家試験合格率推移

旧カリキュラムでの受験者と合格率

回（年度）	受験者（人）	合格率（%）
第21回（平成20年度）	130,830	52.0
第22回（平成21年度）	153,811	50.2
第23回（平成22年度）	154,223	48.3

新カリキュラムでの受験者と合格率

回（年度）	受験者（人）	合格率（%）
第24回（平成23年度）	137,961	63.9

※EPAによる外国人介護福祉士候補者 受験者95人 合格率37.9%

近年の状況変化

2007(平成17)年12月

近年の介護・福祉ニーズの多様化、高度化をふまえ、
人材の確保・資質の向上を図ることを目的に
「社会福祉士及び介護福祉士法」が改正された。

2009(平成19)年4月

新しい養成カリキュラムに基づく教育がスタート

2012(平成24)年4月

「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正により
「介護職員等」が医療的ケアを実施できるようになった

※第28回国家試験(平成27年度)

すべての養成ルートは国家試験を受験する

介護福祉士養成校の現状

- 介護福祉士養成施設(高校除外)は、大学・短大・専門学校において4年～1年の課程がある。
- 近年の定員充足率

年度	定員(人)	入学者(人)	充足率(%)
2006(平成18)年	26,855	19,289	71.8
2007(平成19)年	26,095	16,696	64.0
2008(平成20)年	25,407	11,638	45.8
2009(平成21)年	22,761	9,877(2,671)	43.4【55.1】
2010(平成22)年	20,842	11,800(3,971)	55.6【75.7】
2011(平成23)年	19,858	11,042(2,715)	55.6【69.3】

平成21年度からの()内は離職者訓練制度(介護福祉士養成コース)介護雇用プログラム入学者
但し平成23年度介護雇用プログラムの計上なし。

充足率【 】は職業訓練制度等による入学者数を加算した充足率 出所:厚生労働省社会援護局

介護福祉士を目指す人材支援

東京福祉専門学校なら
自分にピッタリの福祉が見つかる！

東京福祉専門学校

自分にピッタリの福祉が見つかるワケ！

- ▼ 豊富な学科・専攻
- ▼ やってみる授業
- ▼ あなたを支える人がいる
- ▼ 働きながら学ぶ
- ▼ 高い実績

自分の
ペースで
ゆっくり
学べる

たくさんの
こどもを笑顔に
したい

お年寄りが
好き！

リハビリを
頑張っている
人の力に
なりたい

実習が
多い学校で
技術を
学びたい



●所在地

東京都江戸川区

●学校開設

1989年(平成元年)開校 【卒業生数13,500人】

●学部構成と目標資格

・ケアワーク学部

介護福祉士

・ソーシャルワーク学部

社会福祉士・精神保健福祉士

・リハビリテーション学部

作業療法士

チャイルドケアワーク学部

保育士 幼稚園教諭

介護福祉士を目指す人材支援 1

■高校生及び進路担当教員に向けて

- ・進学ガイダンス
- ・高校訪問
- ・高校授業への協力(出前授業)

福祉現場の状況を知ってもらう各種資料

卒業生が活躍する福祉現場を映像でみってもらう

福祉現場での働くことの楽しさを、卒業生の声から知ってもらう

在校生が卒業校に向けてメッセージを発信する

介護福祉士を目指す人材支援 2

■入学を検討するあらゆる層に対して

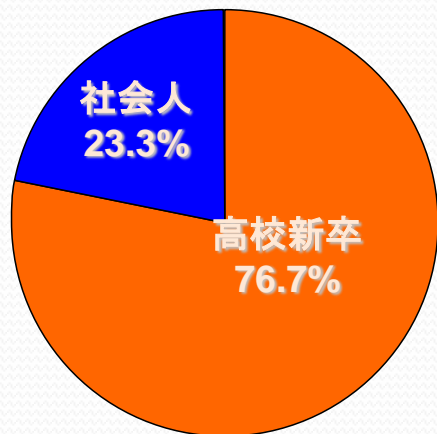
- ・入学案内発送
- ・オープンキャンパス実施(体験授業・施設訪問など)
- ・授業見学会実施
- ・HPの充実
- ・保護者会の実施
- ・在校生による不安解消
- ・専門アドバイザーによる学費相談
- ・ワーク&スタディ制度紹介

介護福祉士を目指す人材支援 3

本校における介護福祉士養成課程

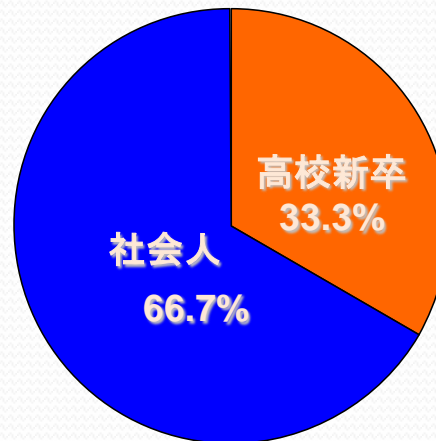
学科	修学年限 定員(1学年)	特徴
介護福祉士実践科	昼間2年 60名	午後フリーの時間 基本カリキュラム中心 離職者訓練制度等利用
介護福祉士科	昼間3年 66名	3年次専攻科目中心カリキュラム (認知症・障がい・在宅) 現場での支援充実
介護福祉士科夜間課程	夜間3年 40名	W&S制度の活用 (昼間働いて夜学ぶ)

平成24年度入学生属性比較



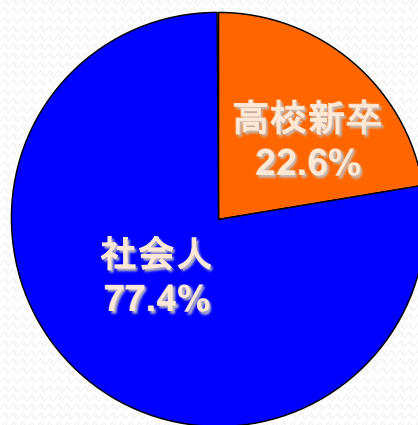
介護福祉士科

平均年齢 19.1歳



介護福祉士実践科

平均年齢 28.0歳



介護福祉士科夜間課程

平均年齢 25.4歳

介護福祉士として育て送り出すために1

■多様な背景を持つ入学生のために

・学び

⇒教育システムの充実 実習支援

・学び方

⇒ ワーク&スタディ制度の活用

施設とのコラボレーションプログラム

・在学中

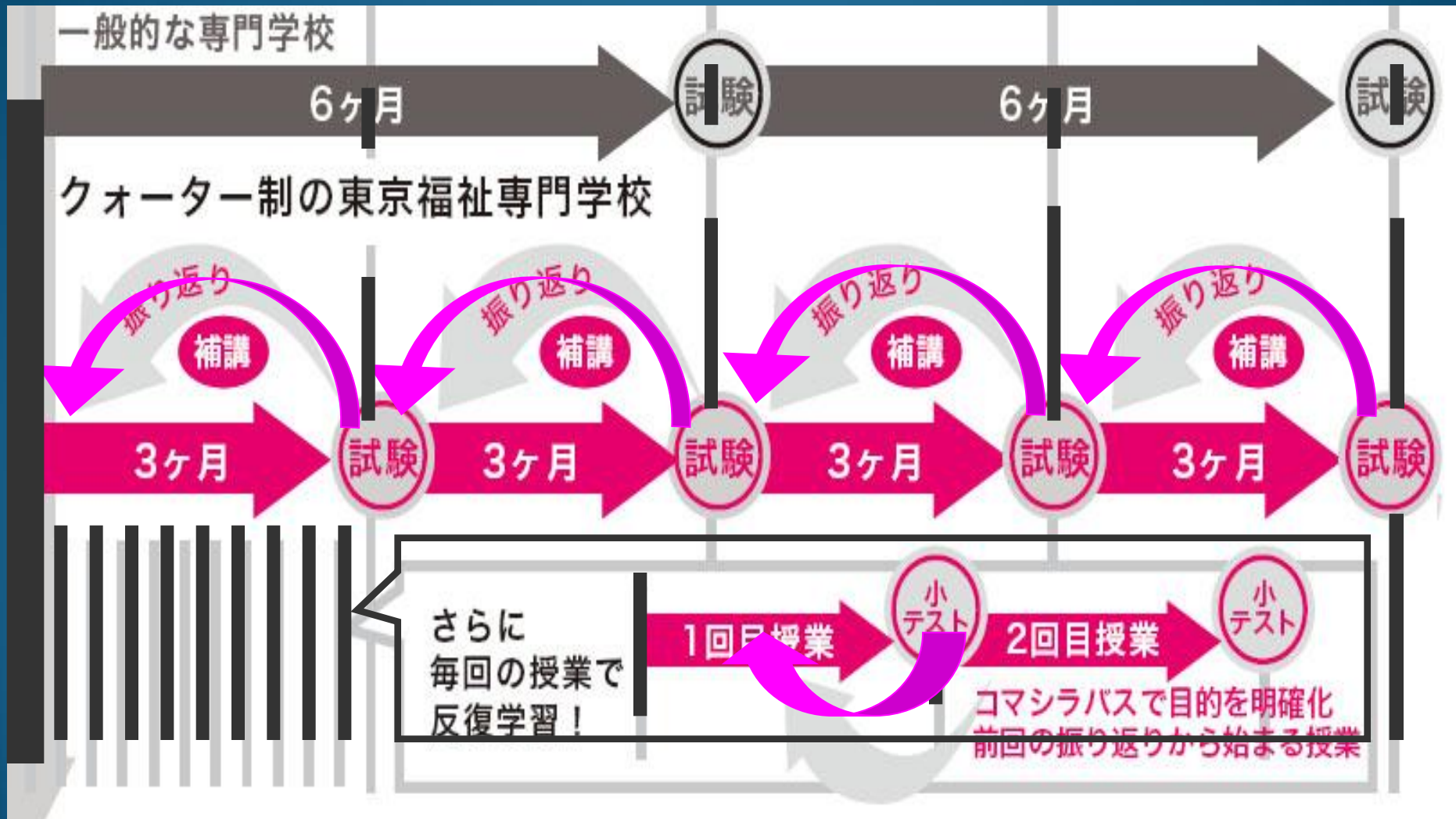
⇒ ころとからだの不安を支援

担任・カウンセラー配置・専門相談・提携診療所

・就職

⇒ 担任・キャリアセンター職員・業界との連携

学び



実習支援

■介護福祉士養成校の実習(450時間)

実習施設Ⅰ(訪問介護・グループホーム等)

実習施設Ⅱ(介護老人福祉施設・介護老人保健施設等)

■実習を支援する者

介護養成校職員(実習巡回)

施設等(現場での指導)

利用者及びその介護者

■養成校と職場が、人材育成という視点で学生を支援するために2009(平成21)年から「介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修」が開始されている。それにより学生達の実習不安は解消されてきている。

実習施設・事業等に係る基準

「実習施設・事業(Ⅰ)」

利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解を行うことができるよう、利用者の生活の場として、小規模多機能型居宅介護事業、認知症対応型老人共同生活援助事業等を始めとして、居宅介護サービスを中心とする多様な介護現場を確保するため、介護保険法その他の関連法令に基づく職員配置に係る要件を満たすこと以外には、特段の要件を求めない。

- 介護福祉士の資格を有するもの
又は3年以上の介護業務に従事した経験のあるもの

「実習施設・事業(Ⅱ)」

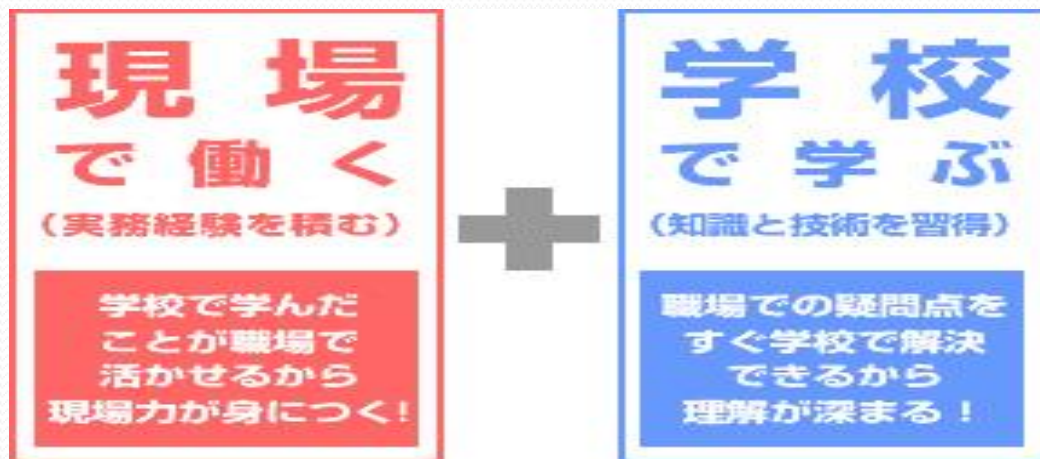
個別ケアを理解するため、介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程のすべてを実践する場としてふさわしいよう、介護職員に占める介護福祉士の比率が3割以上であることや、介護サービス提供のためのマニュアル等介護過程に関する諸記録が整備されていること等を要件とする。
介護実習に係る時間数の3分の1以上をここに充てること。

- 原則として、介護福祉士として3年以上の実務に従事した経験があり、かつ、実習指導者研修課程を修了したもの

学び方

■働きながら学ぶ「ワーク&スタディ制度」

在学中、目指す分野に合った福祉施設や病院の求人を学校が紹介します。施設や病院も働きながら学ぶことを応援してくれる職場なので、無理なく勉強との両立ができます。また、ご希望の方はワーク&スタディ制度学費分納プランの利用も可能です。ワーク&スタディ制度による収入から月々の学費を納入するので、入学時の負担が軽くなります。



学費の分割納入
が可能です。

働く場所は
学校が紹介します。

収入と経験の
両方が手に入ります。

HAPPY



学び方

■施設とのコラボレーションプログラム

現場体験、社会経験の少ない学生に対して
実習(450時間)以外の場で
学生の持つ力を活用できるのではないか。
そのことは、現場力教育の向上に有効。
将来像を明確にしてゆくことができる。

●本校における現場力教育とは

自己の置かれた現状を把握し、自己のもつ知識と技術を活用し、その現状に対して根拠のある行動ができる

現在の実施概要

実施対象学科

介護福祉科昼間部 2年生

活動日

毎週水曜日 午前中

活動内容

各ユニットに3～4名の学生が出向く
利用者の状況に応じて、散歩、足浴、ゲーム、
レクリエーション等を実施
全ユニット共通行事の運営

名称

「よりあい処」運営スタッフ(2006年から開始)



東京栄和会

介護老人福祉施設なぎさ和楽苑概要

昭和55年足立区から移転開設

平成17年施設全面改築(ユニットケア導入)

入所定員120名

入所者平均年齢84.5歳

入所者平均要介護度 約4.0

平成22年度ボランティア延べ5,800名

診療所併設

介護福祉士57名 その他介護員38名

よりあい処



余暇活動を企画し、運営



毎回施設の職員の方々に全員
であいさつをしてから活動を
始めます。



季節の行事には学生たちが
内容を企画します。



それ以外にも、教室の中だけ
は分からないコミュニケーション
の大切さを学びます。





実施後の学生の声

●介護について深く学んでいます

支援が必要になる背景を考えながら介護に取り組むことを学べるので介護について深く理解できます。



●クリスマス会や節分会などの季節感を味わって頂く企画なども考え練習し実施しています。

利用者の楽しそうな笑顔を見ることが出来てとても嬉しかったです。

先生からフィードバックがあるのも、振り返りになって役立ちます。



実施後の施設職員

●施設職員から(自由記述)

学生の自由な発想での行動で、利用者との
関わりを考える機会となっている

利用者が学生を待っている

実習とは異なる学生の力をみれた

最近の学生は、以前とは異なるのがわかる

利用者の新たな一面をみれた



新たなコラボレーションプログラム

震災等の災害時

なぎさ和楽苑での活動をする

●背景

- ・東日本大震災時の施設の状況
- ・学生達の思いを形にする支援方法
- ・共育協同というコンセプト

●参加者対象者

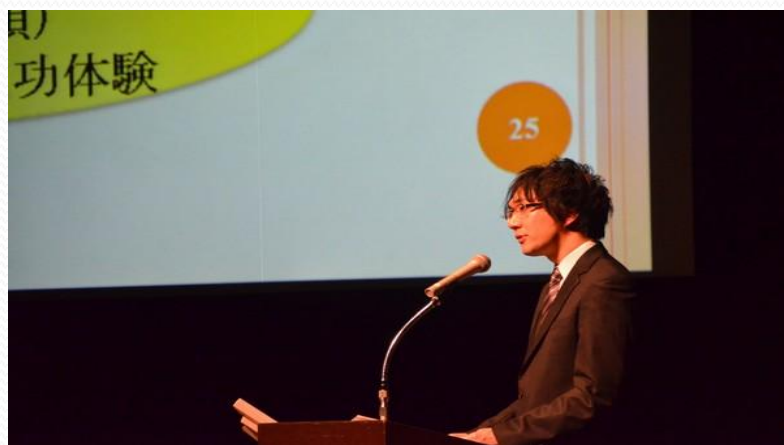
- ・介護福祉士養成課程(全3学科)学生約30名の希望者

●実施状況

- ・2012(平成24)年8月夜間避難訓練に参加



産・官・学協同の試み



産・官・学協同の試み

「日本の福祉現場力を高める研究大会」の実施
大会概要

キャリア形成期の「高校生」

キャリア設計期の「福祉を学ぶ学生」

キャリア開発期の「福祉業界人材」

福祉を目指す人材、福祉現場で活躍する人材が一堂に会することで、原点回帰（福祉を目指した気持ちを喚起させる）ものとして、相互に刺激し、モチベーションを高めあうことを目的としている。

産・官・学協同の試み

主なプログラム

- 福祉を学ぶ学生による研究発表
- 福祉業界による発表
- 高校生作文コンテスト表彰式
- ゲスト講演またはパネルディスカッション

【本校HPから】

平成24年2月17日、日比谷公会堂で「第5回 日本の福祉現場力を高める研究大会」を実施しました。

当日は1,078名の参加者に対し、学生の立場・福祉業界の立場から、それぞれ福祉に関する研究発表がなされました。

また三好春樹さんによる講演と高校生作文コンテストの表彰も行われました。

就職状況

■介護福祉士養成校(全国)における卒業生の進路

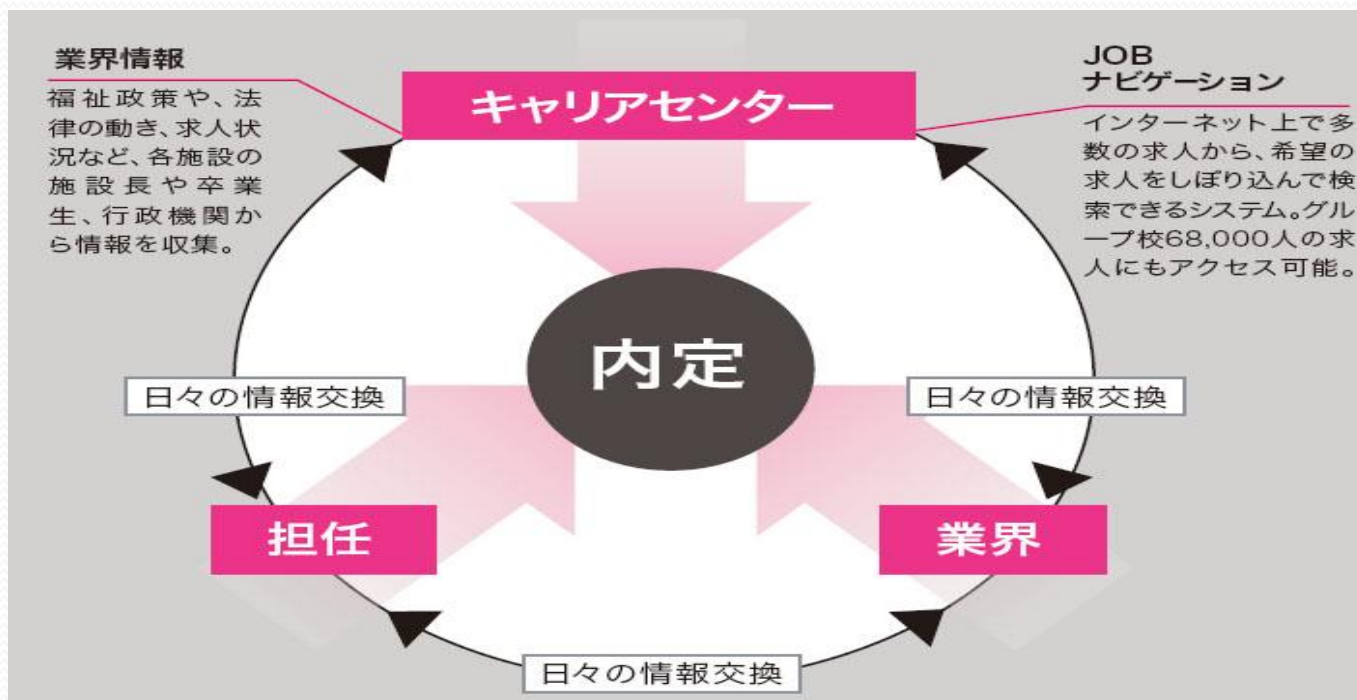
区分	年度	H18	H19	H20	H21	H22
社会福祉施設の介護職員等		10,859人 58.0%	9,618人 58.0%	6,401人 56.0%	4,497人 57.0%	4,410人 54.0%
社会福祉関係機関		225人 1.0%	223人 1.0%	197人 2.0%	109人 1.0%	144人 2.0%
介護老人保健施設		3,348人 18.0%	2,769人 17.0%	1,786人 15.0%	1,398人 18.0%	1,299人 16.0%
医療機関		1,362人 7.0%	1,037人 6.0%	673人 6.0%	434人 5.0%	495人 6.0%
その他		3,106人 16.0%	2,942人 18.0%	2,476人 21.0%	1,498人 19.0%	1,864人 22.0%

介護福祉士養成施設協会資料より

生涯就職支援

■本校全体の状況

- ・求人数 14,018人 就職倍率 65.2倍
- ・就職率 100% 専門職就職率 99.0%



就職支援から

■ 学生達の視点

- 勤務場所、賃金、勤務体系支援体制
- 若い学生 最初は施設で学ぶ
- 年齢層高い学生 自分のライフスタイル考慮、起業等

■ 施設のアピール

- 研修体制の充実
- 賃金の安定・休日確保
- 職場のムード

■ 学校

- 希望の職種、場所等を優先し
- 研修体制の充実等
- 卒業生の動向

地域支援としての再就職への委託事業

■江戸川区の人口

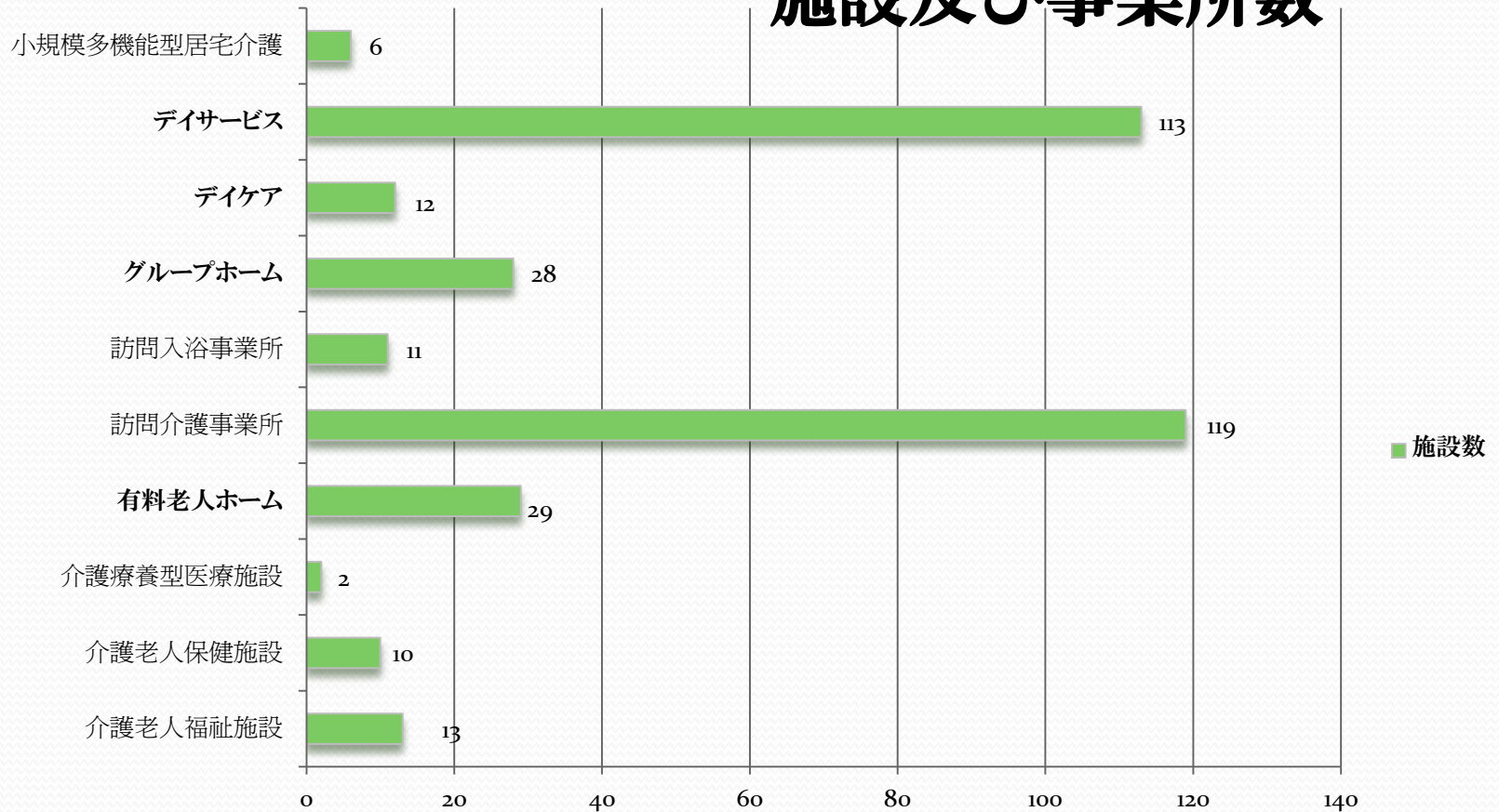
1位	世田谷区	約88万人
2位	練馬区	約71万人
3位	大田区	約69万人
4位	足立区	約68万人
5位	江戸川区	約67万人

■高齢化率

平成12年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
12.5%	17.5%	17.8%	18.1%

平成36年度22%と予測されている

施設及び事業所数



「介護ブラッシュアップ研修」の実施

■目的

区内の介護サービス事業所や施設で働きたい方がスムーズに就職できる事を目的とする。

■受講対象者

現在介護業務に従事していない①介護福祉士、訪問介護員1・2級の有資格者②介護職員基礎研修修了者③介護現場で就労経験のある方等で、江戸川区内の介護事業所に就労する意思のある方。

■受講料 無料

■募集人員 40名(申し込み順)

■募集媒体 江戸川区広報 江戸川区介護保険課HP
区施設等に募集チラシ掲示等

介護ブラッシュアップ研修の実施内容

■研修内容(各日10:00~13:00)5日間

日程	内容
1日目(月)	人と関わるコミュニケーション技術 介護保険制度の概要と最近の動向
2日目(火)	認知症ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ
3日目(水)	再就職に役立つ介護技術Ⅰ(移動・排泄等)
4日目(木)	再就職に役立つ介護技術Ⅱ(更衣・整容・食事等)
5日目(金)	就職対策講座 業種説明・就職活動案内・介護施設等見学

■開始

平成21年度から年3回実施、平成22年度までは週4日で実施

平成23年度からは受講者希望にて、上記日程で実施(介護技術1日増加)

※平成21年度のみ、通年で「悩み相談ホットライン」実施

参加者実績

	計	性別		資格						介護業務経験		
		男性	女性	介護福祉士	基礎研修	ヘルパー1級	ヘルパー2級	なし	不明	あり	なし	不明
平成21年度(第1回)	12	3	9	1			9	2		7	5	
平成21年度(第2回)	17	6	11	2		2	7	6		11	6	
平成21年度(第3回)	25	5	20	5	1	2	16	1		15	10	
平成22年度(第1回)	7	3	4				6	1		4	3	
平成22年度(第2回)	10	2	8	1			9			8	2	
平成22年度(第3回)	9	0	9	1		3	5			4	5	
平成23年度(第1回)	13	4	9	3	1	1	5	3				13
平成23年度(第2回)	13	4	9	2		1	9	1		7	6	
平成23年度(第3回)	11	1	10						11			11
平成24年度(第1回)	15	2	13	2			11	2		5	10	
計	132	30	102	17	2	9	77	16	11	61	47	24

参加者状況等

- 平成21年度、「悩み相談ホットライン」として、現在就業中の方も含めて、通年で学校専用電話で精神保健福祉士等を配置、対応を実施するも、相談数1件。区主体ということで敬遠されたのか。

⇒22年度からは実施せず。

- 受講者の年齢20代30代は各回1名ほど、他は40代～50代後半が中心。受講内容に関して満足度は高いものの、就職に対して不安を持つものが多い。

⇒就職実績は不明(ボランティア等には有効活用)

- 広報媒体等の工夫、ライフスタイルにあった就職支援が必要か。